

令和八年度

学校推薦型選抜・社会人選抜入学試験

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は表紙を含めないで3ページあります。解答用紙は3枚です。下書き用紙は1枚あります。
試験中に、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 試験開始の合図があったら、まず、すべての解答用紙の所定欄に受験番号を記入してください。
- 4 解答はすべて解答用紙のそれぞれの解答欄に記入してください。
- 5 試験時間は90分です。
- 6 解答用紙は記入の有無にかかわらず、持ち帰ってはいけません。
- 7 この問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読んで問いに答えなさい。

A Iが空気を読めるようになり、その上で人のためになる行動をとるとしたら、それはどのような基準で判断すればよいだろうか。もちろんA Iは論理的に思考し、合理的な解を求めるだろうから、それでよいと思える。近年の経済学も人は合理的な判断をするという土台の上に構築されてきたし、我々が何かを判断する際も、常に合理的に考えて最も適切な判断をしているはずだ。

しかし、実際はそうではないのである。常に合理的に判断するA Iでは、人からの信頼は得られない可能性が高い。なぜなら、そもそも人は常に合理的な判断をする生き物ではないからだ。

ここで最後通牒ゲームなるものを紹介しよう。このゲームの参加者は二人で、仮にAさんとBさんとする。まずAさんに1万円を渡し、Aさんは手渡された1万円を好きに分割してBさんに渡すことができるとする。お互い均等に5000円ずつに分けるかもしれないし、自分は8000円もらうことにしてBさんには2000円を渡すという提案でもよい。

Bさんは、Aさんから渡された金額で承諾すれば、そのお金をもらうことができ、Aさんも自分に割り振ったお金をもらうことができる。しかし、もしもBさんが拒否した場合は、Bさんも、そしてAさんもお金をもらうことができない。さて、Aさんはこのとき、どれくらいのお金をBさんに渡すべきなのであるか？

Aさんとしてはより多く自分に割り振りたいところだが、Bさんとしては、自分に割り振られた金額が少額の場合、①Aえて受け取らないという選択をすれば、多くを懐に入れようとしたAさんも受け取れなくなることから、拒否するかもしれない。であれば、1…1で分割するのが妥当だと思う人がほとんどであろう。

一方でBさんの立場にいた場合、Aさんから99…1などと提示されたら、100円しか受け取れないことになるので、拒否する人もいるかもしれない。しかしここで冷静になって、合理的に考えれば、100円であれ受け取ったほうが利益になることは間違いない。そうであるにもかかわらず、BさんはAさんに嫌な思いをさせてやろうとして、拒否する可能性が高いのである。人は決して合理的に考える生き物ではないのだ。

しかも驚くべきことに、このときの分割の仕方は、民族や地域によって異なるのである。先進国のようにコミュニケーションインフラが発達している地域ではたしかに1…1のような分割が平均的となるのだが、そうでない地域においては、Aさんが極端に多くもらいうような分割の仕方をしてBさんは拒否しない傾向があるのだそう。

話を戻して、最後通牒ゲームの判断を、Bさんに代わってA Iが行う場合を考えてみる。もしAさんから100円しか割り振られない提案がされた際に、A Iが合理的な判断から受け取ると決めたでしょう（「100円であれ受け取ったほうが利益になる」）。このとき、Bさんには「A Iは自分の気持ちを理解していない」と感じられ、その意味で「②サクシユ

された」気分になり、その結果AIはBさんには信頼されないということになる。たしかに、自分の気持ちを理解してくれないAIを信頼する気分にはなれないだろう。

さらに別の例として農作業の風景を想像してみよう。超少子高齢化が進む日本において、2040年問題としてもいろいろ議論されているところであるが、第一次産業や運送、建築分野などで働き手不足がすでに③ケンチヨとなつている。無論、田畑をロボット工場化することは可能であろう。協働ロボットを多数投入するようなものである。ただしこれは田畑のロボット工場化であり、実質的にロボットの世界に人が入り込む形になる。効率化の挙げ句に空虚なコミュニケーションしかできない社会は、我々が理想とするものではないはずだ。人間中心でなければならない。

ここでいう「人間中心」は、人がAIや環境を支配するという意味ではなく、人が主体となって暮らす社会という意味である。「郷に入つては郷に従え」である。人間社会にロボットが入ってくるのであれば、我々のようなコミュニケーションができ、お互いに気配りができることが望ましい。ロボットも場の空気を読み、人と阿吽の呼吸でやりとりし、意図を理解した会話ができ、豊かな感情表現やユーモアの能力も持つ必要がある、ということである。場合によってはロボットが人にため口を利くこともあるだろうし、人に仕事を依頼することがあつてもよいのだと思う。農作業において、ロボットが重たい土は自分が運ぶが、軽い④ヒリヨウは人に運ぶことを依頼してもよいわけだ。このとき、人のほうは、「ロボットが人間に命令するとはけしからん」という反応ではなく、「そうか、たしかに軽いものは多少自分で運んだほうが体にはよいし、自分の健康を気遣つての依頼なのだな」と思うことができたとき、人とAIとの間の信頼関係が構築できていると言えるのではないか。そのためには、ロボットには高度な自律性があり、人の健康を気遣うことも目的として組み込まれている必要がある。

日本にはよい言い回しがある。「おもてなし」である。この単語と1対1で対応する英語はなく、Hospitalityとか、Welcome、Entertainといった単語がニュアンス的に近い。この「おもてなし」を工学的に定義するとすれば、「相手の状況を詳細に観察し、相手が何をしたいのかを推測し、相手がその目的を達成しようとするとき、こちらが先んじて介入するのが適切と判断できる動作を、適切なタイミングで、相手が行動を起こす前に実行すること」ということになる。まさに、人が信頼できる自律型AIとは「おもてなし」ができるAIということになる。そしてこのような言い回しがあることも、日本社会に、自律型AIが浸透する適切な⑤ドジョウがあることの証^{あかし}となっているのかもしれない。

（栗原聡著『AIにはできない 人工知能研究者が正しく伝える限界と可能性』角川新書による）

注 最後通牒ゲーム：提案者と受け手との間で実験者から与えられた金銭の分配を行うゲームであり、人間が自分への金銭的利益のみを追求しないことを示した実験の一つ

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字になおし、楷書で正確に書きなさい。判読の困難な文字や不明瞭な文字で解答した場合は採点されません。

問二 問題文を二五〇字以内で要約しなさい。

問三 波線部はどういうことですか。本文の内容に即して、自分の体験を挙げながら、三〇〇字以内で説明しなさい。

問四 AIと人との信頼関係構築に関する筆者の見解はどのようなものですか。また、その見解について、あなたはどのように考えますか。具体例を挙げて、二五〇字以内で述べなさい。